



葉にもいろいろな種類があることを、見て、触って、においをかいで確かめます



「森のムツレ教室」が、5月から6月まで、4回、仙波河岸史跡公園で行われました。この教室に参加したのは、中央保育園の5・6歳の子供たち十九人。五感を使って遊びながら、さまざまな生き物と触れ合い、体で「生物界の共生」を学ぶ環境教室です。子供たちと自然との、橋渡しをしてくれる妖精ムツレは、スウェーデン語の「土壌」が語源。ムツレが、子供たちに教えたこと、伝えたことは、何だったのでしょうか。



雨の中、かっぱを着た子供たちが熱心に何かをのぞき込んでいます。視線の先に、葉の先から今にも落ちそうな滴や、クモの巣にちりばめられた滴、一人で見つけた「宝石」です。「見て見て」と大切そうに見せ合います。晴れた日には、ルーペを使った観察。透明ケースの下から、ダンゴムシのお腹を見たり、ミミズの体の先端から口が見えたりする度、歓声が上がります。



つかまえた虫をみんなでじっくり観察



ムツレと元気にあいさつ「コリコーック！」(こんにちは)

ボランティアで教室を主催した飯島希さん(脇田町)は、環境にかかわる活動を通じて「森のムツレ教室」に出会いました。「自然は楽しいことがいっぱいあるから好き、だから大切にしたい。そんな気持ちで芽生えればと願っています。6歳くらいまでは、ファンタジーの世界を信じている年齢。ムツレが教えてくれたことは、大人になっても覚えていてくれます」。この教室は、スウェーデン



ダンゴムシを下から見ると……

の野外生活推進協会が開発した環境プログラム。すでに五十年以上の歴史があります。最終日、子供たちが待ちに待ったムツレが登場。これまで習ったことを一緒に復習します。「三つの約束言えるかな?」。すぐに答えが返ってきます。「大きな声を出さない」「草や花は根っこから抜かない」「ゴミは持ち帰る」「そうだね。ダンゴムシは、葉っぱを食べてフンをするよね。フンは土の栄養になって、木が育って、葉が茂って、落ち葉になって、またダンゴムシが食べて……。これって、何て言うんだっけ?」。少し考えて、「くりかえし、くりかえし!」。この教室で、子供たちは、生物は共生し、人間もその輪の中にあることを、感じたようでした。



「ムツレさんに、笹舟もらったよ」



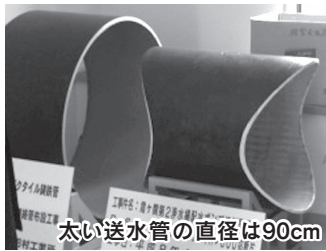
水の循環と光合成も学びました

## 浄水場で水の大切さを実感

6月5日、笠幡の霞ヶ関第二浄水場で、一般公開が行われました。職員の案内で、親子連れなどが、場内の設備の説明を受けました。参加者からは、「大きな施設の中はどうなっているのだろうと、いつも思っていました。仕組みが良く分かりました」「24時間管理しているとは知らなかった」など。ふだん見ることができない設備を熱心に見学していました。



説明に興味津々



太い送水管の直径は90cm

## 丹精込めた4,000株の菖蒲しょうぶ



休耕田を利用した笠幡菖蒲園

12回目を迎えた菖蒲まつりが、6月12日から9日間行われました。春先の天候不順が開花時期に影響しないかという、笠幡菖蒲愛好会の会員の心配をよそに、紫や白の花が咲きそろいました。同会会長の竹田文子さん(77歳・笠幡)は、「会員の高齢化が進んでいるので、畑の維持も大変。若い人の力を借りて、菖蒲を育て、咲かせる楽しみを一緒に味わいたいですね」と話してくれました。

ひま  
ちと

ふ  
お  
と  
こ  
じ  
ゆ  
ー  
す

ひま  
ちと

行って 会って 体験  
気になるイベントや人を紹介

## 小江戸あるき

ひま  
ちと

## 師弟で自転車国際レースに出場(川越工業高校)



果は、落車に

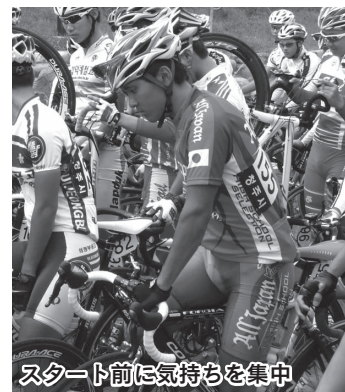
さが伺えました。

市川さんは、一日五十〜六十キロメートル、休日は百キロメートルの練習をするそうです。それほど練習を重ねても大会前は、不安でいっぱいだったとか。出

車が整然と並べられていることに気がつきました。渋谷さんに聞くと、「市川さんが学ぶ機械科の上級生と、雑然としていた駐輪場を何とかしようと、課題研究で車輪止めを製作した」とのこと。自転車競技の名門校らし

弟で出場を果たしました。アジアカラ六か国二十一チームの百余人りが参加。各チーム六人が、一日約百キロメートルを五日間走ります。監督を務めたのは、同校自転車競技部顧問の渋谷陽治教諭。自身もインターハイで入賞したことのある実力の持ち主で、今回、師

普通段、練習場所のときがわ町へ自転車で向かう市川さん。川越は、道路がきれいに舗装されていて、走りやすい反面、交通量が多いため、気を使うことが多いそうです。韓国で走った印象は、道幅が広く、走りやすかったと語ってくれました。



スタート前に気持ちを集中

二回巻き込まれるなどのアクシデントに見舞われたものの、チームは十位、個人は六十九位。「ペース配分や力の出し方などの違いを知ることができ、初めての海外試合は、良い刺激になりました」。

